

# 縄文里山づくり

御所野遺跡の縄文体験

御所野縄文博物館  
編

新泉社







01	縄文里山の四季 春	8	06	土に残る記録	28
				〔図版Ⅷ〕 自然環境をどう解明するか	30
02	縄文里山の四季 夏	12	07	木を育てる	32
				〔図版Ⅷ〕 縄文の森づくり	34
03	縄文里山の四季 秋	16	08	住居をつくった木は	36
				〔図版Ⅷ〕 竪穴建物から出土した木	38
04	縄文里山の四季 冬	20	09	なぜ建物にクリを使ったのか	40
				〔図版Ⅷ〕 クリの木を伐る	42
05	縄文里山とは	24	10	土屋根の竪穴建物	44
	〔図版Ⅷ〕 縄文里山の復元計画	26		〔図版Ⅷ〕 竪穴建物の復元	46
11	縄をつくる	48	16	ウルシの木を育てて使う	68
	〔図版Ⅷ〕 縄文時代の縄づくり復元	50		〔図版Ⅷ〕 漆掻き	70
12	薪はナラ材	52	17	スズタケでカゴを編む	72
	〔図版Ⅷ〕 薪の燃焼実験	54		〔図版Ⅷ〕 縄文人の竹細工と現代の竹細工	74
13	御所野の粘土で土器をつくる	56	18	サルナシで編む	76
	〔図版Ⅷ〕 土器づくり	58		〔図版Ⅷ〕 一戸町面岸の箕づくり	78
14	縄文人の植物利用	60	19	縄文里山づくりで見えてきたこと	80
	〔図版Ⅷ〕 出土した種実を調べる	62		〔図版Ⅷ〕 御所野縄文里山カレンダー	82
15	木の実を採る	64	20	持続する取り組み	84
	〔図版Ⅷ〕 トチノキの実のアク抜き実験	66		〔図版Ⅷ〕 御所野遺跡をささえる地域の活動	86



# 御所野縄文公園

川によって削られた  
河岸段丘に  
火山灰が厚く  
積もった大地、  
そこで御所野縄文ムラが  
営まれた。

## 御所野縄文公園

7.7haの台地から丘陵地まで、ほぼ全面が縄文ムラの跡で、現在、御所野縄文公園として公開している。集落の様子は時期により異なるが、東ムラ・中央ムラ・西ムラにあった土屋根の竪穴建物、中央部の配石や盛土など主要な遺構を復元し、周辺の森も縄文里山づくりを進め当時の植生に再生しつつあり、縄文の原風景にふれることができる。





## 01

## 縄文里山の四季 春

長かった北国の冬が終わり、雪解けとともに、植物が少しずつ芽吹きます。山はまだ枯れたままの時期に忽然とあらわれるのがコブシの花です。あちらこちらで白い花が見えるようになると、それを合図に御所野遺跡が動き出します。

最初は遺跡中央の配石遺構に被せていた土をとりのぞく作業です。冬のあいだ、石の凍結を防ぐために被せていた土をとりのぞくのです。それが終わると、竪穴建物の屋根の土を叩き締める作業が始まります。これは土屋根を維持するために欠かせない作業のひとつです。

土屋根竪穴をつくったのは御所野縄文公園がオープンする二年前でした。最初の三年間は順調でしたが、その後雨漏りがするようになり、カビが生えたり、なかには屋根材が腐食して折れたりするところが出てきました。

注意深く観察すると、その部分の屋根が下膨れになっていました。そのため屋根の中央付近にくぼみができて、そこに雨水が溜まり、なかに浸み込んでいたのです。

原因を調べたところ、冬から春先にかけての雪解け時に、屋根土が大きく変化していたことがわかりました。屋根にあった雪が日中の陽気で解けて、夜になると凍結するということを繰り返し、そこにくぼみができていたのです。なかでも日陰となる北側の屋根には毎年雪が残り、

傷みが激しくなっていました。このような経験から春先にまず土屋根の叩き締めをおこなうようにしました。

さて、近くの山では最初にフクジュソウ、それからノビルやタラノキ、やがてワラビやウド、コゴミなどが芽吹き、雪解け水で元気をとりもどした沢でミズ、モミジガサなどがいつせいに芽吹きはじめると、縄文人の忙しい一年がはじまります。

植物の新陳代謝が活発になるこの時期は、縄文人がもっとも植物を利用しやすい時期でもあります。マタタビやサルナシなどの蔓を採取します。御所野遺跡の北側の崖には、マタタビの蔓が繁茂しています。マタタビの葉はところどころに白葉が混じり、キラキラ輝くので遠くでもすぐそれとわかりますが、このような葉が出る前に採取します。採取した蔓は一昼夜蒸して乾燥させてから編み物などの材料にします。サルナシは蒸すことで暗い茶褐色の蔓がみごとにオレンジ色に変身します。

やがて新緑が濃さを増し、ヤマブキの黄色い花が咲き乱れるころになると、御所野の台地の西を流れている馬淵川まぶちの浅瀬で、腹を赤くしたウグイの産卵がはじまります。いろいろな回遊魚が戻るこのころ、馬淵川はいつきに賑やかになり、ウグイに続いてコイの産卵もはじまります。御所野遺跡では焼けたウグイの骨が出土しています。

春から夏にかけての大仕事は木の伐採です。石斧で伐採するには木肌の柔らかいこの時期が最適です。クリの木は建物の材料となり、シナノキからは縄づくりの繊維をとり、コナラは燃料材になります。伐採したコナラは現地乾燥させます。家づくりの材料となるクリとシナノキは樹皮を剥ぎ、クリの樹皮はそのまま乾燥させ、シナノキの樹皮は水漬けにします。



# 春

## 縄文里山の四季

御所野遺跡の春は忙しい。  
配石遺構を保護していた土をとりどりのぞき、  
雪解けで傷んだ土屋根を叩き締め、  
マタタビやサルナシの蔓を採取し、  
クリやコナラの木を伐採する。



春になり最初に  
花をつけるのがコブシ。  
土の中からは  
フキノトウが芽を出す。  
馬淵川ではウグイやコイの  
産卵がはじまる。

⑤ 石斧でクリの木を伐採する。  
木肌が柔らかい春が最適だ。

④ 編み物の材料となるサルナシの蔓  
を葉が出る前に採取する。

③ カゴの材料となるクルミの樹皮を  
石器で剥ぐ。

② 土屋根を叩き締め、冬のあいだに傷んだ箇所を修繕する。

① 冬のあいだ配石遺構を保護するた  
めに被せておいた土をとりどく。

